

平成24年度における施策評価

施策評価調書

政策コード	9	政策名	自然環境の保全			
施策コード	2	施策名	自然と触れ合う多彩な活動の推進			
幹事部局コード	5	幹事部局名	生活環境部	担当	自然保護課	
評価者・実施日	1次評価(生活環境部長)		平成24年7月31日			

1 施策の方向性(必要性と目的)

県民の自然環境への関心や、自然に親しむニーズが高まってきていることから、安全で充実した体験や学習を行うことができるよう、自然公園内の公共施設や登山道の計画的な整備を進める。
また、自然観察指導員の活動を促進するとともに、エコツーリズムの推進、自然環境学習拠点施設やその周辺フィールドを利用した自然環境教育の推進を図る。

2 施策の状況

(1) 施策目標及びその達成状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H22	H23	H24	H25	備考
		年度						
①	自然環境学習拠点施設利用者数(年間) (単位:千人)	215	目標値	266	215	215	215	
		22	実績値	215	185			
	各施設年間利用者数による	—	達成率	80.8%	86.0%			
②	自然観察指導員数(累計) (単位:人)	339	目標値	348	340	340	340	
		22	実績値	339	321			
	秋田県自然観察指導員登録者数による	—	達成率	97.4%	94.4%			
③	白神山地ガイドツアーの利用人数(年間) (単位:人)	5,124	目標値	5,124	5,260	5,400	5,530	
		22	実績値	5,124	5,693			
	八峰町、藤里町の白神ガイド利用者数による	—	達成率	100.0%	108.2%			
達成度		—		C	C			

達成度 A:「全て達成」 B:「半分以上達成」 C:「達成が半分未満」 D:「全て未達成」 E:「その他」

(2) 施策の推進状況

①自然と触れあい、親しむ施設等の整備と有効活用

■取組内容

- 国立公園及び国定公園、県立自然公園内のトイレの修繕、木道等の施設整備を実施した。
- 自然公園内の美化清掃活動を行っている14団体に助成した。

■取組の成果

- 自然公園内の施設整備は計画的に実施しており、自然環境の保全と利用者の安全性及び快適性は維持されている。
- 美化清掃活動等を継続的に実施することで、利用者のマナーが向上し、自然公園内でのゴミの収集量は減少傾向にある。

■課題と今後の推進方向

- 自然公園内の自然環境の保全と利用者の安全性・快適性の向上を図ることが必要であるため、引き続き施設整備等を推進していくが、緊急性・優先度の高い箇所から着手するとともに、今後の維持管理を含めたトータルコストでの縮減が図られるように検討し、適正な予算の執行に努めていく。

②自然観察活動の促進

■取組内容

○「環境と文化のむら」において、自然観察会を月2回ペースで実施した。

■取組の成果

○県の公の施設である「環境と文化のむら」（五城目町）について、平成21年度から指定管理者制度を導入し、それまで月1回のペースであった自然観察会を月2回に増やしたことにより、自然観察活動に親しむ人が増加した。

■課題と今後の推進方向

○環境と文化のむらでの自然観察会については、月2回のペースを維持し、施設利用の周知に努める。
○県全体の自然観察指導員の人員が高齢化による減少傾向にある。このため、H24年度には八峰町で自然観察指導員講習会を開催し、新たな指導員を養成することで人員増に努める。

③エコツーリズムの推進

■取組内容

○白神山地世界遺産地域及びその周辺地域におけるエコツーリズムを推進するため、秋田、青森の両県の関係団体で「環白神エコツーリズム推進協議会」を設立し、環境省の交付金事業の活用及び環白神エコツーリズム行動計画の検討を行った。

■取組の成果

○年4回の会議による協議の結果、「地域コーディネーター活用交付金事業」へのエントリーについては、参加自治体の予算確保が難しいため、H24年度に足並みを揃えて実施することとなった。
○協議会の目標を5年後の「総合的な役割を担う機関の設立」とし、それまでの間の事業スキーム等を定める「環白神エコツーリズム行動計画」を策定した。
○H24年2月25日に能代山本広域交流センターにおいて、環白神地域フォーラムを開催した。

■課題と今後の推進方向

○H24年度は環境省の交付金事業を活用し、環白神の共通パンフレット、ホームページ及び環白神フォーラムの開催等を実施する。
○H25年度に白神山地が世界遺産条約登録20周年を迎えることから、関係機関等と連携して記念イベントを企画、実施する。

3 評価

(1) 施策幹事部長による1次評価

評価結果	●施策の推進状況
やや遅れている	○H23年度より目標値を新たに設定したが、①②において目標に達していないことから、施策の推進に努力を要する。 ○自然環境学習拠点施設の利用者については、指定管理制度を導入した箇所において利用者数が伸びている施設も見られる。
	●課題と今後の推進方向
	○県民の自然とのふれあいに対するニーズの高まりに適切に対処するため、また、自然環境の回復の困難性からも、施策の着実な推進が必要である。 ○エコツーリズムに関しては、白神山地での取組を充実させて軌道に乗せることで、それをモデルとして各地域での主体的な取組機運が上昇するよう関係団体が協力していくことが必要である。 ○各指標データの実績値は、近年ほぼ横ばいあるいは減少傾向を示している。まずはこれ以上の減少を食い止め最低でも現状を維持することが必要である。

(2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	●施策の推進状況
	●課題と今後の推進方向

4 評価結果の反映状況等（対応方針）

--

5 政策評価委員会の意見

--